

## CONTENTS



- 2 日米共同のアセスを
- 3 アセスメント学会研究会
- 4 イラスト・バナー&写真展
- 5 じゅごんパネル展 in 津
- 6 ジュゴン訴訟報告会・街頭行動100回
- 7 沖縄の食と生活⑬

国民の知らないうちに道州制への移行作業は、急ピッチに進められ、危険水域に入ってきた。日本政府の狙いは最終的琉球処分であろうと私は考えている。アメとムチで沖縄県経済をとことん痛めつけておけば、自立経済成立不可能を理由に、九州道と合併させることができる。政府の思惑通りに、永久に沖縄・琉球の軍事基地化が可能となるからである。

だが、困ったことに、沖縄県側にその危機感がない。政府主導の経済論議の中で、沖縄県経済界は単独州を望みながらも、これといった説得力のある決め手を打ち出せないでいる。5つある政府案のうち1つだけが沖縄単独州とすると、これはアリバイ工作と見なければならぬ。民主主義が権力に屈し妥協してきた今日まで日本の国民性を見る限りにおいて、これはもう辺野古に軍事基地建設を許したに等しいのである。

### 「琉球自立経済とジュゴン」 SDCC 共同代表 海勢頭 豊

だが、それを許さないのがSDCCの闘いだ。歴史偽装国家の武力信仰の迷信を打ち破って清めるために、まずジュゴン＝サメの名誉回復を図り、歴史の真実を明らかにしなければならない。古代において琉球開闢（かいびやく）したわれわれの祖霊たちが、島々から太陽信仰と姉妹神信仰を持ち帰り、さらに絶対平和思想をジュゴンから学んで「神」とあがめ、それでもって世直しのために創作神話を作って、戦乱の世を治め、邪馬台国を統一して平和国家倭国を誕生させた。世の中を清めるために、ジュゴンのペンダントが大いにパワーを発揮したことは言うまでもない。

先ごろ、斎場御嶽から発掘された黄金のペンダントすなわち勾玉が新聞に出ていた。琉球自立の宝である。

**[WEB] <http://www.sdcc.jp/>**

**[EMAIL] [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)**



防衛省を包囲

イラストバナーも一緒に参加

“基地をけとばせ！ストップ米軍再編4・6防衛省「人間の鎖」”行動に参加しました



スペイン地図

バルセロナは  
ここです

バルセロナのお店で  
買い物するときは…



¿Cuanto cuesta?  
クアント クエスタ  
いくらですか？



## 「沖縄ジュゴン訴訟と IUCN 勧告で日米共同のアセスを」

4月24日に被告・国防総省は「ジュゴンに配慮する情報をまとめた報告書」を裁判所に提出しました。1月23日「ジュゴンへの影響に配慮せずに基地建設計画を進めたことは手続き違反である」と、国家歴史保護法違反の判決から90日目に提出したが、原告は6月9日までに「報告書」に反論し、8月末には裁判所が命令を出すようです。国防総省が提出した報告書には、日本の環境アセスメントを基本にして、沖縄近海の海草の生育状況を調査することと、沖縄ジュゴンの文化的重要性について独自に検討するとしています。文化財保護に厳しい米国が環境アセスメントを独自に行えば、アセスメントのやり直しなど日米間の矛盾が出てくることを恐れたからだと思います。また、沖縄ジュゴンの文化的重要性は少ないと主張することで、国家歴史保護法にはなじまないとの反論を狙っているようです。国際水準にかい離した日本の環境アセスメントは、いまや被告・国防総省にとっても弱点になっています。

島津康男さん（元学会長）をはじめ環境アセスメント学会の有志が検討している「日米共同のアセスメント」がその弱点をえぐり出すものだと思います（別記事参照）。私たちは10月IUCN（国際自然保護連合）第4回世界自然保護会議の勧告に「日米共同のアセスメント実施」を取り上げます。勧告案の提出期限6月6日にむけて、WWFジャパンや日本自然保護協会と具体的な検討に入っています。2000年、2004年につづく3回目の勧告となるので、「なぜ、3回目の勧告を出す必要があるのか」を説得力ある内容で書くことが求められています。オーストラリア以外の生息地、とりわけ、東・東南アジア地域で、絶滅の危機にあるジュゴンの保護を訴えるキャンペーン、2010年国際ジュゴン年実施を勧告の柱にすることを検討しています。沖縄ジュゴン裁判の具体的な命令が出された直後で、ジュゴンや海草の調査の真最中の10月IUCN総会は、きわめて重要です。勧告の実現に向けて、ご支援をよろしくお願いします。



<4月13日SDCC総会>



お願い

がんばります



スペイン・バルセロナでのIUCN開催は前回のタイ・バンコクでの開催に比べて、飛行機運賃・宿泊費は4倍以上、参加費も倍以上（今回は前半で3.2万円、フル参加で4.8万円）になっています。

参加費の捻出と学生やフリーターへの援助のために、諸物価高騰の折ですが、会費の切り替えとカンパをよろしくお願いします。

# アセスメント学会の研究会でも政府のアセス批判

4月19日中央大学で環境アセスメント学会主催の「普天間飛行場代替施設の環境アセスメントに関する事例研究会」がありました。講師は島津康男さん（元学会会長）と桜井国俊さん（沖縄大学学長）。住民に目線をおいた方々で、マスコミでも政府や沖縄県の姿勢を批判してこられました。

島津さんは政府のアセスは「こっそり縦覧」「計画内容・事前調査が不透明」「質問に答えず、資料の小出し」「自然環境の予測が旧態依然」と、「史上最悪の独善アセスメントだ」と痛烈に批判しました。今後、ジュゴンにどの程度の影響を与えるのかを数量として明らかにすること、埋め立ての土地の調達先のアセスをすること、方法書のやり直しに戻れなくとも準備書で代替案の経過と比較検討すること、国際水準を保証するために日米共同アセスをすることなどを提言しました。

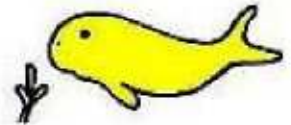
桜井さんは明らかにされない事業内容（施設ゼロ、土地調達先アセスなし）では予測できないこと、事前調査が行われてきたこと、ジュゴンへの影響についての調査、予測及び評価の方法が適切ではないと「辺野古『アセス』はアセスでない」と批判しました。絶滅危惧種にはリスクアセスメントで対応すること、基地建設をする場合としない場合のジュゴンへのリスクを数量で比較することが、米国連邦裁判所のジュゴン判決の要求水準を満たすことになると提言しました。

また、環境省や沖縄県がアセス法施行令9条（埋立地面積の20%増の場合）を持ち出して、方法書のやり直しの必要がないとしているが、但し書きにある「影響が相当な程度を超えて増加する場合」はやり直しを行うことと明記されている。埋め立ての土砂を当初「購入」から「採取」に変更したことは大きな変更にあたるので方法書のやり直しを求めるべきと主張しました。

お二人の講演は実践的で私たちの運動にも貴重なアドバイスになりました。

## 報告 1

## SDCC総会



4月13日に大阪市内で第8回総会を行いました。東京、三重、沖縄、関西各地から40人が出席。「ジュゴン裁判とIUCN勧告で、基地ではなくジュゴン保護区をつくろう」をテーマに論議しました。海勢頭代表のあいさつ、事務局長から活動・会計報告、方針・予算を提案、続いて「IUCN勧告って」を花輪伸一さん（WWF-J）から、「ジュゴン裁判の判決」について吉川秀樹さん（市民アセス名護）から説明を受けました。休憩後は花キャラ隊、月桃の花歌舞団と海勢頭さんによるミニ・コンサートがありました。パネル展や鳥羽水族館ツアーを取り組んでいる三重の発言、100人の参加でイラスト写真展を成功させた東京の発言、総会直前にした100回記念街頭行動についての関西の発言。具体的な取り組みと10月IUCN総会（スペイン）にむけた決意が元気に語られ、今後の方針と決算・予算、役員が承認されました。

- （今後の方針）
1. ジュゴンの複数年調査を求めて環境アセスのやり直しを実現する。
  2. ジュゴン保護のための日米共同の環境アセスを実現する。
  3. 2010年国際ジュゴン年キャンペーンを強化する。
  4. 10月IUCN第4回世界自然保護会議でジュゴン保護の勧告を実現する。

（役員）代表・海勢頭豊、事務局長・蜷川義章、会計・矢敷克子、国際・吉川秀樹

（会計報告）07年決算・収入3,324,580 支出2,642,398 収支682,182

（収入）会費1,648,500、カンパ1,388,656、事業102,910、その他15,556、繰越金170,958

（支出）交通958,400、通信580,514、宿泊50,735、事務所625,000、手数料2,685、印刷33,210

使用料84,292、事務消耗95,418、分担金66,844、その他145,300

08年予算・収入4,343,182 支出4,185,000 収支157,182

（収入）会費2,000,000、カンパ1,500,000、事業150,000、その他10,000、繰越金682,182

（支出）交通1,100,000、通信800,000、宿泊150,000、事務所625,000、手数料10,000、印刷400,000

使用料300,000、事務消耗200,000、分担金100,000、その他500,000

報告2

# イラスト・バナー&写真展in読谷村

本土で行っているイベントを是非とも地元沖縄の皆さんにも紹介したいという思いを込めて3/9(日)沖縄県読谷村文化センター、中ホールにて行われたSDCC代表の海勢頭豊と「月桃の花」歌舞団コンサート会場のロビーをお借りして開催しました。去年全国から公募し集まった個性豊かなイラストと、スタッフによって撮影した大浦湾の貴重な写真や記事をまとめたパネルの展示、「2010年を国際ジュゴン年に！」を合言葉に今年10月のIUCN会議へ持参する為に集めているバナー(布)を披露しました。バナーには皆さんのメッセージやイラストを書き込んでもらっています。小さな子どもから金城実さん、山内徳信さんも熱い想いを書き込んで下さっています。読谷村の会場でも沢山の方に書き込んでもらえました。



沢山の方に見て頂けるよう今後も定期的にイラスト・バナー&写真展を行っていく予定です。

当日中ホールは満員♪東京と大阪合同での迫力ある歌舞団の劇と海勢頭さんのトークと歌、とっても感動しました。

昔むか〜しから平和のシンボルだったジュゴンが沖縄の海で棲み続けられますように・・・

小平裕美

報告3

首都圏

## ジュゴンイラスト・写真展 &

### 東恩納琢磨さんを囲んで！！

矢敷克子



3月15、16日の2日間中野ZERO美術ギャラリーで、ジュゴンイラスト・写真展を開催しました。

会場には、全国から寄せられた、子どもからプロの方までの個性豊かなジュゴンのイラスト50点以上と、今年10月にスペイン・バルセロナで行われるIUCN世界会議に持参するために集めた様々なジュゴンちゃんやメッセージが書き込まれたバナー。さらにスタッフが撮影した辺野古・大浦湾の貴重な写真、WWFポスターなど、会場いっぱい展示しました。

そして沖縄から東恩納さんにお越し頂き、アメリカでの沖縄ジュゴン訴訟の報告、沖縄の現状や地元の方々の思いなど、貴重な話を聴くことができました。

初日の15日には、琢磨さんようこそ♪の歓迎セレモニーに歌舞団の皆さんが三線を披露してくれました。お忙しいところありがとうございました。会場では、TVで放映された「人魚の棲む海」のビデオ鑑賞や海底に沈めた泡盛の話題で盛り上がり、今後の展望を語り合ったりと活発な意見交換ができました。もちろん新しいバナーも用意し、来場者の皆さんに書いていただきました。公募のイラストやバナーの絵に「うまいなあ〜」と来場者からの声がありました。

会員の方々の他に、銀座わしたショップでのチラシをご覧になって足を運んでくださった方、WWFのイベントとハシゴして来られた方など、新しい広がりも感じられました。2日間で約100人の来場者がありました。



お知らせ

## 第2回目ジュゴンイラスト・写真展 東京

- 日時： 6月7日(土) 13時~20時  
8日(日) 10時~16時
- 会場： 中野ZERO 美術ギャラリー
- 講演会：6月7日(土) 18時~20時  
「大浦湾のアオサンゴについて」(仮称)
- 講師 目崎茂和先生(南山大学教授)

## 大阪

- 日時： 6月1日(日)  
写真展 午前10時~午後5時  
集い 午後2時~午後4時(講師 目崎茂和南山大学教授)
- 場所 とよなかすてっぷ  
(阪急豊中駅前エトレ豊中5階 セミナー室1B)
- 参加費無料

報告 4

☆じゅごんパネル展in津☆

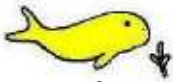
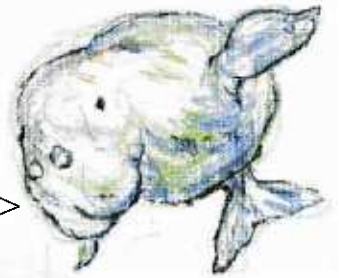
ジュゴンパラダイス三重☆  
野田啓子



今年から月1回の恒例行事としてパネル展を始めました。そもそも三重は常時活動できるスタッフが私一人しかいなくて、ずっとどうしたらいいものかと悩んできました。そこで思いついたのがパネル展。しかし私は車を持っていないので、電車で移動可能な駅近くの会場でないといと15枚のパネルの運搬は厳しい。おまけに活動資金も限りなくゼロなので使用料が無料でないとい困ります。ここは駅から徒歩1分、利用料もゼロ。細く長く活動を続けたいと考えていた私にピッタリ。ここでのパネル展も今月で4回目を迎えました。見学に立ち寄ってくださる方はどの回もだいたい数名です。数は少ないのですが満足しています。毎月第4土曜日にここへ来れば、パネル展をやっているじゅごん好きのおばちゃんに会える！ということ覚えてもらいたいのです。そうやってジュゴンのことを知り、考えてくれる人がじわじわとでも増えていってほしいと願っています。

P. S みえ市民ボランティアセンターの女性スタッフからの過去情報

7~8年前まで津市には「ジュゴン」という名のお好み焼屋さんがあったとか。名物はジュゴン焼き。形もジュゴン？で、お味はたこ焼きとお好み焼きを足して二で割ったような感じだったとか。でも、とても美味だったそうです。残念！私も食べたかったな。もっと早くに知っていれば・・・。



今年もやります！

第3回じゅごんの里ツアーのお知らせ

お知らせ



昨年のツアーのひとコマ。

この沖にアオサング群落があります。

「じゅごんの里」ツアー、今年は6月27日(金)~29日(日)の2泊3日で計画しました。初日は名護市内にある「龍泉」という泡盛酒造を訪ねます。龍泉は泡盛「じゅごんの里」の酒造です。2日目は船で大浦湾へ。昨年9月に見つかったアオサング群落調査に行きます。ダイビングされる方は調査に参加していただけますが、ダイビングできない方もシュノーケルで大浦湾の海を体感することができます。そして1年前に沈めた「海底貯蔵泡盛」の引き上げ！1年海底で寝かせた泡盛の味はきっとすばらしいはず。去年申し込まれた方、もうすぐお届けできます。楽しみにお待ちください。そして夜は「ジュゴンの里」で交流会。去年はその日撮影した海の画像を見たり、地元の方々と歓談したり、楽しいひと時を過ごしました。3日目はフリーライターの浦島悦子さんのご案内で、やんばる散策を予定しています。やんばるの美しい海は、やんばるの山がはぐくんだものでもあります。海と山の両方を堪能できるツアーです。ぜひご参加ください。

東京と関西からのツアーを募集しています

6月27日(金)~29日(日)

27日は午前出発、29日は那覇を夕刻に出発

27日名護市内ホテル泊、28日は「ジュゴンの里」泊(予定)

東京(羽田)発ツアー

65,000円(予定)

関西(神戸発関西空着)発ツアー

55,000円

\* ツアー料金には、往復飛行機代、6月27、28の宿泊費、28日の船代、28日の朝・昼・夕食代、29日の朝・昼食代、28日やんばるツアーガイド料、レンタカー代が含まれます。

\* 現地参加費は15,000円です。宿泊されない方、自家用車で参加される方は、その分安くなります。

\* お申込み、お問い合わせなど詳しくは首都圏事務所・関西事務所まで



# ジュゴン訴訟報告会in大阪

報告 5

3月14日(金)大阪天満橋のドーンセンターで「米ジュゴン訴訟報告会」を開催しました。講師の東恩納琢磨さん(「じゅごんの里」)は、ジュゴン訴訟の原告のおひとりで、10年前から基地建設の反対運動をなさっています。「この問題をみんなに伝えることができれば、基地建設を止めることができる」と模索しているうちに、米環境法律事務所「アースジャスティス」に出会い、ジュゴン訴訟を起こすことになったそうです。



大浦湾のアオサンゴについてもお話しいただきました。アオサンゴといえば、石垣島白保のものが北限のアオサンゴとして有名です。白保のアオサンゴは5m×5mぐらいのものが、あちこちにたくさんあります。大浦湾のアオサンゴはさらに北にあるわけですが、50m×30mぐらいの巨大なもので、中に洞窟状の部分があり、形が変化に富んでいるそうです。そのためか日本に生息するクマノミの6種のうち5種が生息するなど、ダイバーにとってとても魅力的な場所だそうです。クマノミはイソギンチャクと共生し、場所を移動しないのでどこに何匹いるということを発表し、捕獲されないようにした上でダイバーの集まるスポットにしたいそうです。ダイバーが集まれば基地問題が広まるし、地元も潤うので地元の人たちの「守ろう」という機運も高まるだろうということです。

報告会には、参加者の三線弾き語り「二見情話」が飛び出したり、今や関西定番ソングとなった「365歩のマーチ替え歌版」をみんなで歌ったり、なごやかに行うことができました。「じゅごんの里」について東恩納さんは「まず、畑を作って自給自足すること。そして沖縄には仕事がないので、アイデアを出して仕事を作ってほしい。ぜひ一緒にやってみましょう」明るく強いみんなのパワーで、ジュゴン保護区を作りましょう。

山根富貴子



参加者がバナーに書いてくれたジュゴンイラストとメッセージ



報告 6

# 街頭署名100回記念行動

in 大阪



花キャラ隊の皆さん

京橋連絡橋は千ランの受け取りが抜群!  
ジュゴンイラストもよく集まります★

街頭で署名を集めるようになってなんと100回目となりました。2004年8月13日、沖縄国際大学に米軍のヘリが墜落した事件に対して大阪駅前ではいろんな団体の人とともに抗議行動をしたのがきっかけです。それからはジュゴン保護を求めて独自路線を取るようになり、雨の日でもできる京橋の連絡橋でも行動をするようになって現在はここでの行動が主となりました。

さて、100回目となった4月5日当日はお花見に出かける人達が多く人通りも多かったです。それとともに花キャラ隊(花は土に咲くキャラバン隊)のみなさんが応援に駆けつけてくれてにぎやかなものとなり、多くの人達が立ち止まって私達の話に耳を傾けてくれました。途中から月桃の花歌舞団の方が一緒に署名集めをしてくれて、みなさんに支えられて活動してできているんだと実感しました。100回にふさわしく多くの人達から署名をいただき実りある行動となりました。

上田千鶴

# 沖縄の食と生活⑬

## 御三味などの重箱料理と シーミー（清明祭）



先祖崇拝の意識の強い沖縄では、いわゆる「仏壇ごと」といわれる行事を含め、ほとんどの行事が旧暦(陰暦)で行われます。旧暦 3 月に行われる大きな行事はシーミー(清明祭)です。墓参りの事をシーミーといい、中国では一年を24節に区分されたこの頃を清明節といいます。シーミーは御三味(ウーサンミー)といわれる重箱料理を持って親族がお墓参りを行い、墓庭でござを敷きご馳走を食べながら親睦を兼ねる行事で、ピクニック気分です。本家、分家など親族・一門が集い、門中(ムンチュー)シーミーや、神御清明(カミウシーミー)などが行われます。

シーミーの料理は御三味といわれる重箱料理と餅を入れた重箱をそれぞれ一対を準備します。御三味とは本来は宗廟に供える 3 種のいけにえ(牛、羊、豚)が転じたもので、豚、とり、魚の三牲の養いに変わり、親にご馳走をするという意味に通じ、御三味として定着したといわれています。その中身は三枚肉の煮つけ、紅白蒲鉾、豆腐、昆布、天ぷらなど 7 種類、あるいは 9 種類の奇数を重箱に上手に詰め合わせます。三枚肉は皮付きで、重箱に盛り合わせる時は、皮目が上になるようにこれも奇数切れ盛り込みます。いわゆるこれがラフテーであり、沖縄ソバの上に乗っている具になるのです。その他にも大根や田芋、ごぼうなどが用いられますが、十六日祭(旧暦一月十六日に行われる墓参り)やお盆、お彼岸もほとんど同じ料理の詰め合わせです。

仏教の影響を受けなかった沖縄ではあらゆる不祝儀ごとに精進料理ではなく、このような料理が並びます。法事の場合は赤蒲鉾が白に変わり、卵がタププリ使われた黄色のカステラ蒲鉾が使われ、昆布の結び方が変わります。餅は本土のようにつき餅ではなく、中国式にひいた粉を餅に成型する方法で、白い餅を 15 個盛り合わせます。

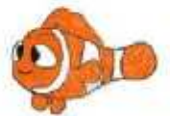
このような伝統を重んじた御三味も時代と共に変化をきたしています。かつては行事、行事の準備が大変といわれていましたが、今日ではスーパーや仕出屋さんに注文すればちゃんと揃い、更にはシーミーの御三味の重箱料理はオードブルや寿司盛に変わってきたりもしています。それでも、これも中国の影響ですが、冥土のお金になるウチカビ(紙銭)や、1センチ幅ほどの真っ黒のヒラウコウ(平線香)が必需品であり、墓前で線香やウチカビを燃やす煙が立ち昇る情景は依然変わっていません。

しかし、御三味という言葉さえ忘れられ重箱と言う方が通じるようになった今日、料理は変わってもシーミーは生活の中に定着し、また、法事には伝統の重箱、「御三味」がちゃんと受け継がれているのは、ご先祖や伝統を大事にする気持ちが働いているからなのではないでしょうか？

宮城都志子



僕の仲間が  
いっぱいいるよ



## 第3回大浦湾調査 カクレクマノミとご対面

3/8に名護市大浦湾の潜水調査を実施し、アオサンゴの群落とユビエダハマサンゴの群落で、大浦湾の生物をデジカメで撮影してきました。天気は曇りがちでしたが、海は穏やかでした。最初に潜水したのは、アオサンゴの群落です。幅50メートル以上はあり大きなサンゴの山のような山です。お目当ては、カクレクマノミで、映画のニモのモデルになったクマノミです。動きが速くてなかなかベストショットはありませんでしたが、かわいい姿を撮影することができました。



次のポイントは、ユビエダハマサンゴの群落です。大浦川の河口に近いこともあり、若干海水が濁っているようでした。ここではコウイカ(クブシメ)を探したのですが、見つけることはできませんでした。そのかわりに、ユビエダハマサンゴの中に生み付けてあったコウイカの卵をたくさん見つけることができました。

手つかずの貴重な大浦湾の自然を画像にして、保護を訴えていきたいと思ひます。首都圏では、6月7日~8日に第2回ジュゴンイラスト・写真展(なかのZERO)を開催します。多くの皆さんに訴えて成功させたいと思ひます。

三村昭彦

## じゅこんグッズが買えるお店♪

新たにSDCCグッズを置いてくれるお店が増えました。沖縄国際通りからすぐの場所にある「エコアンテナショップがじゅまるガーデン」さんです。

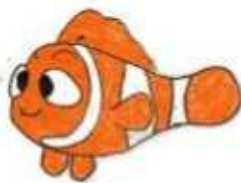
三年前にOPENしたガジュマルガーデンさんはエコ商品（環境配慮商品）を販売しながら、環境に配慮した生活を送るための情報を発信し、資源循環型社会を目指したライフスタイルを提案しているお店です。場所も国際通りからすぐなのでお近くに行った際に一度覗いてみて下さい。

### ★エコアンテナショップがじゅまるガーデン

所在地 〒900-0014 那覇市松尾2丁目7番10号  
第二公設市場跡地 にぎわい広場  
TEL 098-868-7841 FAX 098-868-7851  
営業時間 11:30～19:00  
定休日 毎週水曜日、年末年始（12月29日～1月3日）



素敵なお店です。  
のぞいてみて  
ね！



### ☆ ボランティアスタッフ 募集 ☆

SDCC では常時ボランティアスタッフを募集しています。ネットでのよびかけ、街頭での宣伝、グッズやイラスト作成、事務所での整理や発送作業など、お手伝いいただける方はぜひご連絡お願いします！

#### Editor's Note

大阪は今、新緑の季節です。この間、近所で木をつつくコゲラ(キツツキ)の姿を発見しました。平和を守り、自然を守りたいです。Y

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.38 2008年5月5日発行  
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)  
Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1  
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内  
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)  
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302  
TEL/FAX 06-6353-0514



私たちの「はやし小児科」の玄関などには、ロゴマークであるジュゴン親子が何組も楽しそうに泳いでいます(写真)。診療所のお披露目の際には、貴センターの宣伝グッズに当院の電話番号を印刷していただき、100名をこす見学者にお配りしましたので、100軒のお家でも泳いでいることと思います。

昨年の開業時、地域に五千部以上配布したパンフレットに「温暖化などの環境破壊、社会の変化で脅かされている子どもたちの生活環境を守りたいという願いを込めて、日本の自然保護団体が保護に力を入れている沖縄辺野古崎のジュゴンをロゴマークとしました。小児科は親子と共に歩む科ですので、親子の図としました。」と、書かせていただいています。

## ジュゴンが泳ぐお医者さん



飾っているジュゴンのぬいぐるみに、「好き好き」をしている子どもさんもいるのですが、病気の子どもさんを抱えて来られる方ばかりですので、署名はなかなか思うように集まりませんでした。子どもさんが病気でないときも集まってもらえるような子育ての集いなども企画しそのような中で、平和と環境を守ることへの協力を呼びかけてゆければいいなと思っています。

沖縄の環境を破壊し、ジュゴンを絶滅させる基地建設は、同時に医療費を削り小児医破壊の原因でもありますので、その意味でも基地建設反対に協力してゆきたいと思っています。  
林啓次

